

2006年8月1日

(第13号) 夏創刊号

獨協医科大学病院だより

— Dokkyo Medical University Hospital —



日本医療機能評価機構 日本医療機能評価機構認定病院

平成18年(2006年)

8月



第13号

◆ 主な内容 ◆

身近な病気Q&A「夏に多い皮膚病」… 2

「海外旅行と感染症」…………… 4

臨床検査部からのお知らせ …… 6

日光医療センター開設 …… 7

公開講座のお知らせ…………… 8

緩和ケア研修会のお知らせ …… 8

編集後記…………… 8

身近な病気 Q&A



『夏に多い皮膚病について』



皮膚科 助教授 濱崎洋一郎

夏になると汗をかき、皮膚に汚れが付きやすく、それに引き続いて皮脂腺や汗腺の開口部が塞がって炎症が生じたり、細菌感染が起こり易くなります。「みずむし」や「たむし」などの真菌感染症も夏に悪化します。また、海水浴やキャンプなど屋外で活動する機会が増える事より、紫外線による皮膚炎や植物による接触皮膚炎、「虫刺され」などにも注意が必要です。そこで、夏に多い皮膚病のいくつかについて解説いたします。



Q 「とびひ」とはどういう病気ですか？治療はどうしたらよいのでしょうか？

一般に言われる「とびひ」は伝染性膿痂疹の事で、水ぶくれや膿のかたまりを形成する皮膚の細菌感染症です。原因菌は黄色ブドウ球菌や化膿レンサ球菌が多く、この菌が健康な皮膚に付着するとその箇所に伝染する事より、火事の火が十数軒おいた家に飛んで燃え移るのと似ているため「飛び火＝とびひ」と呼ばれるようになりました。抗菌・抗生物質の飲み薬、塗り薬が治療の基本です。入浴はシャワー浴とし、可能なら軟膏外用後ガーゼ、包帯で覆います。



とびひ

Q 虫に刺されたらどうしたらよいのでしょうか？

一般に使われている「虫刺され」は、昆虫、ダニ類その他の節足動物に咬まれたり、刺されたり、虫の毒物などと接触する事により生じます。ダニ、カ、ブヨ、アブ、ドクガ、ハチなど原因となる虫はたくさんあります。多くの場合は咬まれた、もしくは刺された部分のかゆみ、チクチクした痛みなどを生じ、赤くなり、皮膚だけの症状ですみます。しかし、ハチの場合は、気分不良や血圧の低下などショック症状が出現する事もあり、命に関わるため大変危険ですので、直ちに近くの病院を受診して下さい。一般に、虫に刺され、かゆみや痛みを生じた時には、掻いたり叩いたりせずに、ガーゼやタオルをきれいな水にひたして、軽く湿布をするとよいでしょう。氷水で冷やしすぎると、血液の流れが悪くなり、かえって痛みがひどくなることがあります。赤くなった皮膚には、軟膏(副腎皮質ステロイド軟膏など)の外用を行い、かゆみが強い時には抗アレルギー剤を内服します。「虫刺され」の皮膚を掻いているうちに、「とびひ」などの細菌感染症を引き起こす事もあります。

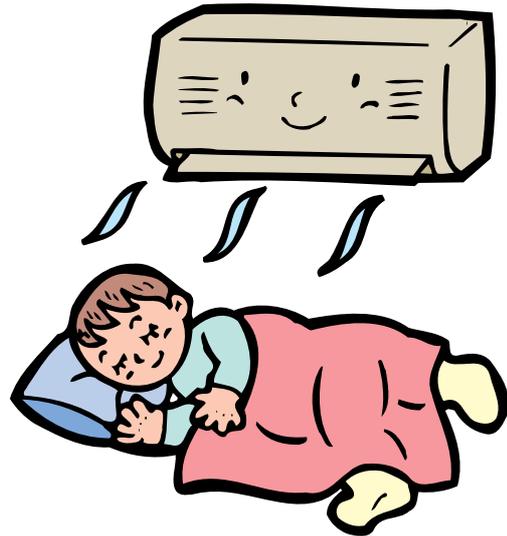


虫刺され (毛虫)



「あせも」の予防と治療はどうしたらよいでしょうか？

「あせも」は医学用語で汗疹といい、汗の出口がつまり、皮膚の汗腺、汗管に炎症を生じた状態です。特に小児によくみられ、首、体、腋の下、四肢の屈側に好発します。予防としては、汗をかいた時にはシャワーで流し、通気性・吸湿性のよい下着をこまめに取り替えて、皮膚を清潔に保つことや、室温をエアコンなどで調節し、除湿や換気を行い、涼しい環境を心がけることが大切です。治療は炎症を抑えるため、軟膏、クリームやローション（副腎皮質ステロイド軟膏など）の外用を行います。また、「あせも」に伴い、乳幼児の顔、頭、背中やおしりに痛みを伴う赤い丘疹、膿疱が出現する事があり、これを一般に「あせものより」（化膿性汗腺膿瘍）と言います。これは、細菌感染によるもので、切開排膿や抗菌・抗生物質の外用、内服が必要になります。



「みずむし」の治療はどうしたらよいでしょうか？

「みずむし」は、「カビ」（真菌）のなかの白癬菌という微生物が、角質のケラチンを栄養として、足の皮膚表面に寄生する疾患です。通常、梅雨の時期から夏にかけて悪化します。症状としては足の趾間が白くふやけ、ただれた状態になるものや、土踏まず、足縁に小さい水疱を生じるもの、また踵など足の裏の角質が厚くなり、ガサガサになるものなどがあります。治療についてですが、菌は皮膚の最外層の角質に寄生するので、入浴時に足をよく洗って清潔にして、抗真菌外用薬を塗ります。外用は症状のある皮膚の部分より少し広めに塗り、そしてかゆみなどの症状が改善しても塗り続けることが大切です。家族内への感染を予防するためには、スリッパやお風呂のマットを共有しないようにするのがよいでしょう。爪もケラチンを含んでいるため白癬菌が寄生し、爪が白く混濁したり、厚くなります。これは、爪の「みずむし」です。この場合は抗真菌薬の内服が有効です。



みずむし

以上、夏に多い皮膚病について述べました。

こまめにスキンケアを行い、皮膚を清潔に保ち、夏を快適に過ごして下さい。

海外旅行と感染症



感染総合対策部 講師 吉田 敦
(感染症専門医、旅行医学専門医)

夏休みの予定、もうお決まりでしょうか。海外旅行を計画されている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

日本とは異なる環境に出かけますと、誰でも体調に変化を来す可能性があります。特に日本の衛生状態は世界の中でもきわめてよいため、私たちが海外に出ますと、いろいろなかたちで「微生物」による「感染症」にかかる可能性があります。微生物とはいわゆるばい菌やウイルス、虫（寄生虫）のことです。

感染症にかからないで、海外旅行をするためにはどうしたらよいでしょうか。

Q

海外旅行では、どのような感染症に注意したらいいですか？

まず多いのは、下痢症で、旅行者の半数以上がかかるといわれています（感染性胃腸炎）。これは「微生物」の混じった食物を食べたり、水を飲んだりすることで生じます。その他、気管支炎や肝炎、蚊にさされてかかるマラリアやデング熱といった病気があります。

Q

下痢症にかからないようにするにはどのようにしたらいいですか。

まずよく火の通った食べ物を食べるようにすること、そしてミネラルウォーターなど、ふたの閉まったきれいな水を飲むようにすることです。さらに、トイレに行った後は、よく手を洗ってください。ウェットティッシュで拭いたり、アルコール入りの手指消毒薬（薬局で売っています）を使うとさらに効果的です。

Q

海外旅行の前にどのような準備をしたらいいですか？

まず、旅行先の国についての情報をお集めください。ガイドブックのほか、インターネットでも知ることができます（例：検疫所による「海外渡航者のための感染症情報」<http://www.forth.go.jp/>）。地域によって、衛生状態が非常に異なります。また、予防接種を受けたり、マラリア予防のための薬を内服したりする必要があります。その他にも、日焼け止めや防虫剤、蚊取り線香を用意した方がよい場合があります。



Q

海外旅行の前に、相談したいのですが

当院では、2006年5月に「感染総合対策部（直通電話 0282-87-2418）」が発足しました。毎日9時から17時まで相談を受けつけています。お気軽にお電話ください。旅行先の情報から、感染予防上の注意、予防接種までアドバイスいたします。近く外来診療を開始できる見込みです。

なお、海外旅行での感染症ばかりでなく、感染症一般についてのご相談、ご紹介もいただいております。

注意！！このようなものはおすすりできません！！**①「ホテルの朝食で、むいて出されたフルーツ(カットフルーツ)を食べた」**

…むくときに「微生物」がついてしまったため、胃腸炎や腸チフスにかかる危険性があります。

②「東南アジアに行って、屋台料理をはしごして食べた」

…衛生的に調理されていない料理が出されていることが多く、胃腸炎や肝炎にかかる危険性があります。

**③「家族連れでハワイに行って、川で水遊びをするつもり」**

…川の水の中の微生物(レプトスピラ)が皮膚や粘膜から体内に侵入して、レプトスピラ症(発熱、黄疸、肝障害など)をおこす可能性があります。

④「アメリカ(米国)へ出かける予定だが、短期間なので海外旅行障害保険には入らなくても大丈夫」

…私たちの予想以上に海外での発病、事故は多いものです。先進国では医療費が非常に高額であり、無保険の場合、莫大な出費を強いられる可能性があります。もちろんバックパッカー旅行や途上国への渡航の場合も、保険には積極的にご加入ください。

⑤「韓国に行って、夜に歓楽街に出かける」

…風俗営業関係による性感染症(HIV、B型肝炎、梅毒、淋病など)が特に心配されます。旅に浮かれた軽率な行動で、将来禍根を残すような行動は厳につつしんでください。

⑥「インドに行って、ガンジス川で水浴びをした」

…川の水が糞便で汚れていて、腸チフスにかかる可能性があります。

**⑦「この夏アフリカに出発する予定だが、特に何も準備していない」**

…出発の10日前までに黄熱の予防接種を受ける必要があります。また、マラリアの予防薬を内服することをおすすめします。

臨床検査からわかること その1

臨床検査部

最近、健康診断や治療などのために検査した結果が患者さま本人に直接渡されることが多くなりました。これにより、検査項目の名称や検査結果から何がわかるのかなどの質問をよくいただくようになりましたので、代表的な検査項目について解説します。

しかし、検査結果の意味はとても広範囲にわたりますので、主治医の先生か当臨床検査部の窓口でご相談下さい。今回は血清・血漿を検体として使う、化学検査の項目の一部について説明します。

患者さまから採血した血液は**検体**と呼ばれますが、この検体は前処理の必要なことがあります。検査室では、たくさんの検体を迅速に測るため、全自動の測定装置を使っています。この測定には、血液を前処理して、血液の成分である血清または血漿を使います。血清とは全血を凝固させ、回転の遠心力を利用して分離した上澄み部分のことをいい、血漿とは、薬品を血液に加えて固まらないようにして遠心分離した上澄み部分をいいます。

検査項目名・*基準範囲	*略号と検体	説明
アスパラギン酸オキシグルタル酸トランスフェラーゼ 基準範囲10~37 U/l	AST (エイ・エス・ティー) 別名 (GOT)	肝臓、心臓、骨格筋などに多く存在し、これらの病気で、血液中にASTやALTが流れ出てきます。血液が溶血(ヨウケツ)すると、本当の値より高く測定されます。
アラニンオキシグルタル酸アミノトランスフェラーゼ 基準範囲 3~34 U/l	ALT (エイ・エル・ティー) 別名 (GPT) 検体は血清・血漿	肝臓や心臓および筋肉などの病気を疑う時や経過観察などに利用されます。
アルカリ・フォスファターゼ 基準範囲 104~338 U/l	ALP (エイ・エル・ピー) 検体は血清・血漿 (血漿はヘパリンのみ可)	血中のALPが増加するのは肝臓、骨、小腸などに異常がある場合です。子供や妊婦や血液型がO型かB型の人で高値となる時があります。
ラクテート・デヒドロゲナーゼ 基準範囲 106~220 U/l	LD (エル・ディー) 別名 (LDH) 検体は血清・血漿	肝臓や心臓や筋肉および腎臓に異常があると、血液中にLDが流れ出てきます。血液が溶血(ヨウケツ)すると、本当の値より高く測定されます。
γ-グルタミル・トランスペプチターゼ 基準範囲 男:18~66 U/l 女:10~55 U/l	GGT (ガンマ・ジー・ティー・ピー) 別名 (γ-GTP) 検体は血清・血漿	肝臓に多く存在するので、肝臓の病気があると高値を示すことがあります。慢性的なアルコール摂取や薬剤に対して敏感な酵素で、高値になることがあります。
総ビリルビン (Total-Bilirubin) 基準範囲0.1~1.0mg/dl 直接ビリルビン (Direct-Bilirubin) 基準範囲0.0~0.5mg/dl	T-Bil (トータル・ビリルビン) D-Bil (ダイレクト・ビリルビン) I-Bil (インダイレクト・ビリルビン) 検体は血清・血漿	T-Bilは、水に溶けやすいD-Bilと溶けにくいI-Bilの総量です。黄疸があると高くなります。 D-Bilは、肝臓の病気で高値を示す場合があります。 I-Bilは血液中の赤血球が壊れやすい病気や、新生児で高値となる場合があります。不安定な物質ですから、迅速な測定が必要です。

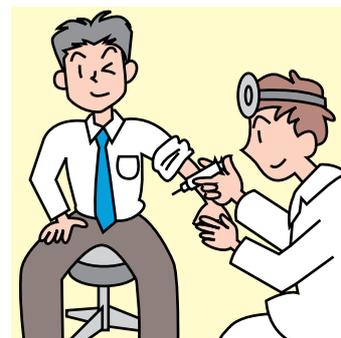
*略号:当院で使用している基準範囲と略号です。

【基準範囲とは】

病気がないと思われる健康人を少なくとも100人以上集め、その人達の血液を測定します。一般的に測定した値の95%が含まれる範囲を表します。

基準範囲を決めるには、測定する方法や健康人の性別、年齢、生活習慣、血液の採り方など、様々な条件をはっきり決めて実施することが必要です。

したがって、基準範囲は病気の有無を判定するものではなく、患者さまの測定値をこれにあてはめて、検査結果がどのあたりにあるのかを判断するための「物差し」の役目であることを御理解ください。



獨協医科大学 日光医療センター

2006.4.1 OPEN

【理念】

地域社会の信頼に応えうる
基幹病院として、
医療を求める人々には
おもいよりの心を持って接し、高度で良質な医療を提供する。

【基本方針】

- 安全で安心な医療の実践
- 高度で先進的な医療の提供
- 質の高いチーム医療の実践と医療サービスの提供
- 地域の保健医療向上への貢献
- 人間性豊かな医療人の育成

診療科目

- 循環呼吸器内科
- 消化器内科
- 糖尿病・内分泌内科
- 放射線科
- 外科
- 整形外科
- 泌尿器科
- 麻酔科

休診日(救急を除く)

日曜・祝日・第3土曜日
年末年始(12月29日~1月3日)
開学記念日(4月23日)

受付時間

月曜日~土曜日(8:50~11:00)



【病院長あいさつ】

獨協医科大学日光医療センター
病院長 中元 隆明

獨協医科大学では、大学病院(壬生町)、越谷病院(越谷市)に加えて、このたび日光地区の医療の充実を目的に、新たに獨協医科大学日光医療センターを四月一日に開設いたしました。

本センターは、周辺には世界遺産にも登録された日光国立公園を有し、日本でも有数の観光地をひかえ、さらに鬼怒川、川治、塩原などの温泉郷もあり、地域住民はもとより、観光客にとっても必要不可欠な医療施設と理解しております。

このため地域社会から信頼される中核医療機関として、職員一丸となって患者様救命のために最高の診療を行い、そして、地域住民の方はいよいよおよばず当地を訪れる観光客にとっても安心な病院となるよう常に努力していく所存です。

日光市周辺における救急医療に関しては、地元医師会と常に協力し合い、地域の病院、診療所と緊密な病病あるいは病診連携をし、さらに獨協医科大学内にあっては、本センターと大学病院との間に特別な連携診療体制の確立を構築していく所存です。また、へき地巡回診療の実施やへき地診療所への医師派遣を行い、へき地医療の充実を図る方針です。

地域社会の皆様には更なる温かいご支援を賜りますように、切にお願い申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

交通案内及び交通アクセス



【電車をご利用の場合】

- 東武鬼怒川線「新高德駅」下車 徒歩10分

【自動車をご利用の場合】

- 東北自動車道「宇都宮IC」より日光宇都宮道路に入り、「今市IC」から国道121号線を北上約12km

獨協医科大学日光医療センター

〒321-2593 栃木県日光市高德632

TEL:0288-76-1515 FAX:0288-76-1611

